

日本気象学会1994年度秋季大会の告示

1. 期 日：1994年10月18日（火）～20日（木）
2. 会 場：九州大学 福岡市東区箱崎 6-10-1
3. 研究発表
 - 1) 発表は口頭またはポスターによって行う。口頭発表は4会場に分かれて行う。
 - 2) 口頭発表には2種類があり、これらの選択は原則として発表者の希望による（「口頭発表の方法」参照）。スペシャル・セッションも口頭発表に準ずるが、講演時間等は世話人の判断によって柔軟性を持たせる。
 - 3) ポスター発表は「ポスター・セッションの方法」による。
4. 講演申込方法
 - 1) 本号末の申込用紙に記入し、予稿集原稿を添えて下記宛先に送付する。
〒305 茨城県つくば市長峰 1-1
気象研究所予報研究部内
講演企画委員会（藤部文昭）

スペシャル・セッションに申し込む場合は、上記に加えて、下記宛先へ申込用紙と予稿集原稿のコピーを送付する。

〒810 福岡市中央区大濠 1-6-33

日本気象協会福岡本部調査部

森 義夫

- 2) 申込期限：1994年8月24日（水）必着、ただしスペシャル・セッションは1994年8月18日（木）必着
5. シンポジウム
「熱帯・東アジア域の豪雨」のテーマで、大会2日目（10月19日）午後開催。
大会参加費の払込は、郵便振込による前納または当日受付によります。前納用の振込用紙は6月号に挿入します。

口頭発表の方法

1. 種 別
次の2種類のどちらかを発表者が選択して申し込む。
 - ・第1種講演（講演5分、質疑2分）：新しい研究成果の要点・概要等を発表する。
 - ・第2種講演（講演10分、質疑5分）：よくまとまった段階の研究成果を発表し討論する。予稿は明確に構成記述され、必ず1章を設けて主張の明らかなまとめ、または結論が明記されたものでなければならぬ。講演企画委員会は予稿をチェックし、第1種に振り替えることがある。この場合、委員会は申込者に連絡する。

なお持ち時間は、申込総数によっては上記よりも短くなることがあり得る。

2. 申込件数の制限
1人（連名の場合、同一講演者）で申し込める口頭発表は1件に限る。ただし、独立したテーマの研究に限り、第1種講演1件の追加は認める。
同一講演者による2件の類似したテーマの発表（「その1」「その2」あるいはこれに準ずる性格を持つもの）が申し込まれた場合には、講演企画委員会が適宜処置する（ポスターへの振り替えなど）。

ポスター・セッションの方法

1. 概要紹介に引き続きポスターの前で説明を行う。概要紹介、ポスター・セッションとも第1日（10月18日）午後に行われる予定（講演数が多ければ他の日時にも行う）。
2. ポスター・セッションは約1時間でこの間は口頭発表は休憩とする。
3. 概要紹介は直前の口頭発表のセッション（会場については講演企画委員会で指定する）で講演者自身が行う。時間は1分程度でOHPまたはスライドを1枚だけ用いることができる。
4. ポスターは事務局の指定した場所に掲示する。なお、今回は都合により、掲示できるのは発表当日

- 限りになる見込み。
5. ポスターの掲示および撤去は講演者自身が行う。
なお掲示に必要な鋳またはテープは事務局で用意する。
 6. 掲示板は90 cm (縦)×180 cm (横) 程度である。

ただし、ポスターは大きな紙一枚に書く必要はない。例えば、B4サイズの紙に分けて描き、当日掲示板に並べてもよい。

7. ポスターには講演題目と講演者名を明記する。

スペシャル・セッションのご案内

スペシャル・セッションは、あるテーマに関心を持つ会員同士が、研究分野の枠を超えて交流する機会を設けるために、1988年から始まったものです。一般の大会発表と同様、会員はどなたでも講演申込できます。

ただし今回からは、セッションのプログラム編成に世話人の意向を取り入れるため、申込期限が一般講演よりも約1週間早くなるとともに、予稿と申込用紙のコピーを世話人にも送付して頂くこととなりますので、ご注意ください(送付先と締切は275ページ「大会告示」参照)。

一般の口頭発表と同様、申込用紙には第1種・第2種講演の希望を記入して頂きますが、世話人の意向により、講演種目を変更したり、一般セッションに振り替えたりすることもあります。

1. 西日本の気象災害(台風、大雨、雷、突風、土石流、降灰、酸性雨)

趣旨：西日本はその地理的位置の関係上、これまで台風と梅雨時の豪雨による気象災害によって多大な被害を被ってきた。極めて大きな被害をもたらしたものとして遠くは、1945年9月の枕崎台風、1957年7月の

諫早豪雨、近くは1991年9月の台風19号、1993年8月の鹿児島豪雨などを列挙することができる。また、冬季季節風の風成波浪による白島石油備蓄基地海洋構造物の破壊、寒冷前線通過時の漁船の転覆、中国重工業地帯を起源とすると言われる酸性雨、桜島火山の降灰による農作物への被害などを挙げることができる。加えて、1990年11月から始まった雲仙普賢岳噴火活動は今日に至っても未だ終息の見通しが立たず、その間に堆積した火山噴出物は膨大な量に達し、普賢岳周辺に大雨があるたびに土石流を発生させている。

このように西日本においては、現在進行中の災害を含め、将来にわたって発生が予測される多くの災害の要因がある。

この秋、福岡において10年ぶりに気象学会が開かれることとなったが、上記の理由と研究成果を当該地域に還元するという意味から、「西日本の気象災害(台風、大雨、雷、突風、土石流、降灰、酸性雨)」をスペシャル・セッションのテーマとして掲げるのは時宜にかなったものと思われる。

世話人：日本気象協会福岡本部調査部 森 義夫

講演予稿集原稿の書き方

大会発表を申し込む会員は、以下の要領で予稿集原稿を作成し、本号末の申込用紙とともに講演企画委員会へ送付して下さい。

1. 原稿枚数：1件1枚
2. 用紙：本号末の予稿用紙、またはB4判あるいはA4判の白紙あるいは薄青色方眼紙を使う。
原稿はそのまま写真製版され、B5判に縮小して印刷される。
3. 記入方法：用紙に直接書くか、別の用紙に書かれた文書・図表を貼る。
4. インク：墨または濃い黒色インクを使う。ワードプロセッサのインクが薄い場合には、コピー

してから使用する(インクが薄いままだと、字がかすれたり、方眼紙の網目が浮き出たりする場合がある。)

5. 配置

予稿用紙を使用する場合

1行目に標題を書く。標題が長ければ2行目も使う。

3行目に著者名と所属(勤務先等)を書く。所属は、カッコに入れる。著者が複数の場合には講演者の左肩に*をつける。必要に応じて4行目も使う。

5行目以下に本文を書く。本文は2段組にし、

左半分→右半分の順に書く。

B 4判用紙を使用する場合（付図参照）

記載範囲は縦 305 mm 以内×横 215 mm 以内とし、上部には 20 mm 程度の余白をとる。予稿用紙の場合と同様、最上段に標題，その下に著者と所属を書き，本文をその下につける。標題から本文までの間隔は 25～30 mm とする。本文はなるべく 2 段組（左半分→右半分）にする。

その他の寸法や本文の字数・行数は，厳密に付図の通りでなくてもよい。

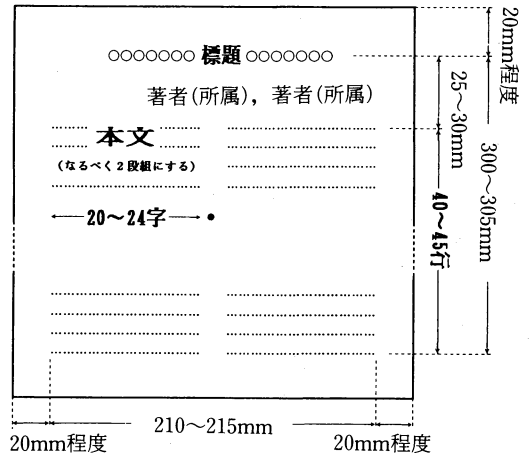
A 4判用紙を使用する場合

記載範囲は縦 250 mm 以内×横 175 mm 以内とし、上部には 20 mm 程度の余白をとる。その他の寸法は B 4 判の場合の 8 割程度を目安とし，全体のレイアウトは B 4 判の場合と同様とする。

6. 図および表

墨または濃い黒色インクで，用紙の枠内の任意の箇所直接描くか，白紙または薄青色方眼紙に描いて枠内に貼る。写真や図等には折り目が入らないようにする。階調のある写真はうまく出ません。

7. 著作権：予稿集に掲載された文章および図表の著作権は日本気象学会に帰属する。
8. 送付先・送付期限：申込用紙参照。なお，予稿集原稿を細かく折り畳まないで下さい（2つ折りは可）。



B 4判用紙による予稿集原稿の作成要領。

講演企画委員会からのお知らせ——研究会活動への援助について

講演企画委員会では，大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し，一般の会員が自由に参加できることを条件として，可能な援助をします。具体的には，大会プログラム等への掲載，講師を呼ぶ場合の報酬・交通費などの資金，会場・機器の手配，時間の調整などが考えられます。支援を希望する方は，右記の事項を明記の上，講演企画

委員会へ申し込んで下さい。

申込先・申込期限：一般講演と同じ

- 記入事項
1. 会の名称とテーマ
 2. 代表者の連絡先
 3. 希望日時・開催場所
 4. 予想参加人数
 5. 希望する支援内容